

## 国連大使による武力行使容認発言に対する抗議と

日本政府が日本国憲法遵守の立場に立ち国際紛争解決の役割を果たすことを  
求める声明

内閣総理大臣 小泉純一郎殿

2003年2月18日国連安全保障理事会公開討論において、原口幸市国連大使は、他のほとんどの国がイラクに対する査察継続を求めたにもかかわらず査察の有効性に疑問があると主張し、米英政府が提出すると言われている「新提案」を支持すると発言した。この新提案は、短期間に区切り大量破壊兵器の破棄をイラクに求め、破棄しない場合は武力行使を行うというものである。これは、先日の査察委員会の報告や圧倒的多数を占める査察継続、平和的解決を求める国連及び世界の大多数の意見を無視するものである。

わが国は、平和憲法を有し国際紛争解決の手段として「武力による威嚇又は武力行使」を用いることを「永久に放棄する」としている。わが国は、武力行使を行うことも支持・容認することもできない。この原口大使の発言は、日本国憲法を逸脱し世界を再び戦争の惨禍へ導くものである。私たち日本バプテスト連盟は、このような国連大使および政府に対して厳重な抗議をする。

現在全世界で反戦と平和を求める声が上がっている。戦争という最も愚かしい行為に日本が参加することがないように願う。私たちは、全世界の国民がひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちの生存する権利を維持するために努力すべきなのである。

戦争、テロ、大量破壊兵器、貧困、専制、隷従、圧迫、偏狭、これらは平和的生存権を脅かすものである。私たちは、これらを地上から永遠に除去するために努力する。しかし、それは決して武力によってなされるものではない。日本政府は、戦争と大量破壊を阻止するために戦争と大量破壊を用いるという米英政府の矛盾に無批判に賛同してはならない。日本政府は、米国追従の姿勢に終始することをやめ、平和憲法遵守の立場に立ち日本にこそ出来る国際紛争解決の役割を果たすべきである。

私たち日本バプテスト連盟は、戦争への賛同、協力を拒否する。

私たちは、国際社会が平和を取り戻すことが出来るように祈る。

「そこで、イエスは言われた『あなたの剣をもとの所におさめなさい。剣を取る者はみな、剣で滅びる。』」(マタイによる福音書26:52)。このように言われる平和の主イエス・キリストに日本政府指導者が耳を傾けることができますように。

2003年2月19日

日本バプテスト連盟 理事会

理事長 吉田 晃児